



継続した交流学習 主体性のある自然な関わり

沖繩市立中の町小学校 × 県立沖繩ろう学校

12月6日に毎年(年2回)、行われている沖繩市立中の町小学校と本校小学部との交流会がありました。今回の交流会では、推進されている「交流及び共同学習」の好事例がたくさんみられたので、紹介したいと思います。

まず、交流及び共同学習の意義・目的は、次のようになります。

「障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となる」

「交流及び共同学習ガイド」 文部科学省

また、このような交流及び共同学習は、学校卒業後においても、障害のある子供にとっては、様々な人々と共に助け合って生きていく力となり、積極的な社会参加につながるるとともに、障害のない子供にとっては、障害のある人に自然に言葉をかけて手助けをしたり、積極的に支援を行ったりする行動や、人々の多様な在り方を理解し、障害のある人と共に支え合う意識の醸成につながるると考えます。

小・中学校等や特別支援学校の学習指導要領等においては、交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすることとされています。

では、中の町小学校体育館で行われた交流会のポイントを少し紹介します。

- ① 到着後、体育館へ誘導する際は、誘導係が(こっちです!)と手を上げながら誘導してくれました。自然な視覚的な支援です。



- ② 自分のチームやコートがわかるように、カード(文字や数字)が準備され、場面に応じて提示された。これは、聞こえにくさに関係なく、全員に効果のあるユニバーサルデザインです。



③ 審判は目立つようにとビブスを着用。 いろんなところに視覚的な情報があります。



④ 片方が気を遣うのではなく、お互いで楽しむことが大切です！



⑤ 中の町小の児童:感想発表や挨拶、司会の場面で手話を使って発表してくれました。適切な文字提示もあります。



あらためて、聴覚障害に関する交流のポイントとしては、

- ① 児童が話し手の方を向いているときに、話し手は自分の顔全体、特に口元がはっきりと見えるようにして話しかける。
- ② 補聴器や人工内耳等で聞き取りやすいように、必ず声を出して話す。唇だけを動かしたり、大声を張り上げたりしないようにする。
- ③ 話が通じにくい場合には、紙に書いたり、空書きしたりして確認するようにする。
*児童によっては、手指の形で、かな文字を表す指文字や手話を活用した会話に努める
- ④ 活動の流れを確認したり、話し手の方を見たりするために、児童が横や後ろを見たりする場合があるので、それを認めるようにする。
- ⑤ できるだけ板書や実物、指文字、手話等を利用するなどして、視覚的な手がかりをもとに活動の流れを把握できるようにする。

「交流及び共同学習ガイド」 文部科学省

これまで、中の町小学校と単発では終わらない交流を続けてきた積み重ねの効果が出ていると思います。ありがとうございます。また、お互いに楽しい交流を続けていきましょう。

